

令和5年度授業改善推進プラン

- (取組内容)
- ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
 - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
 - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

家庭科

★教科・観点について

学力向上のための調査・期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。 <○成果 ▲課題>

観点	1 学期			2 学期			3 学期
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析 (授業改善・評価)	具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
知識・技能	1年	○色やデザイン、柄が与える印象を知り、T.P.Oに合った服装を考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の結果や授業内での観察から、知識・理解の定着が乏しい箇所については、授業内で復習等を実践する。 ・单元ごとに小テストを実施し、学習内容の課題把握に努め、ワークなどを用いて復習を行う。 	1年	○ミシンの基礎縫いやボタン・スナップボタンの付け方を理解することができた。▲ミシンの名称を覚えることができていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストや実技テストを実施し、知識・技能の定着を可視化する。また、必要に応じて復習する時間を設ける。 ・実物を見たり、実際に触れたりする体験的な活動を増やし、知識・技能の定着につなげる。 	衣服表示を見て、衣服に合った洗濯方法を理解することができた。今後は体験的な活動を増やし、更に技能の強化につなげる。
	2年	○6つの基礎食品群を適切に分類することができる。 ▲五大栄養素の特徴の違いについて課題が見られた。		2年	○肉や魚の性質を理解し、調理をすることができた。		授業で学んだ調理方法を活用し、魚・肉・野菜の調理を実践することができた。今後は調理実習の回数を増やし、技能の定着を図っていく。
	3年	○これまでの成長を振り返り、幼児の心身の発達について理解することができた。		3年	○幼児の心身の発達を考え、おもちゃのデザインを考えることができた。		幼児の特徴を理解し、幼児の遊び方を具体的に説明することができた。ロールプレイングを取り入れ、理解を深めていく。
思考・判断・表現	1年	○目的や個性を生かした服の着方を考え、構想した服装を描くことができる。 ▲洋服と和服の違いや特徴を論理的に表現することに課題が見られた。	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の生活を振り返り、課題を自ら考え、解決していく方法を考えさせるために、考える時間をより多く設ける。 ・グループ学習を通して、自身で考えた意見や話し合った内容について情報を共有し、対話的な深い学びが得られるような工夫を行う。 	1年	○被服製作を振り返り自身の課題を見つけ、その課題の改善策を考え論理的に発表することができた。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士で自分の考えを共有する時間を設け、互いに創造力や発想力、表現力を広げられるようにする。 	被服製作を通して手縫いの方法やミシンの使い方を理解し、実践することができた。今後は探究学習を取り入れ、生徒の主体的な学びにつなげていく。
	2年	○それぞれの食材の特徴について理解している。 ▲足りない食品群を追加し、バランスの良い献立内容を考え、選択することに課題が見られた。		2年	○6つの基礎食品群を意識し、バランスの良い献立内容を作成することができた。▲知識の差が献立作成に影響している。		6つの基礎食品群を組み合わせ、栄養バランスのとれた1日分の献立を考えることができた。引き続き、朝食の献立作成や1日分の献立作成を行う。
	3年	○幼少期を振り返り、自己の成長や生活に家族や周囲の人との関わりの重要性について考えることが出来る。		3年	○幼児の年齢に合った遊び方を工夫し、保育園実習で実践することができる。		幼児の年齢に合ったおもちゃを考案し、製作することができた。来年度は身近な物を用いて製作を行う。
主体的に学習に取り組む態度	1年	○日常着の手入れに関心を持ち、しみ抜きや洗濯方法に取り組みようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の授業のはじめに、授業のめあてや流れについて揭示し、授業の目標や内容の把握につなげる。 ・資料を見やすく明瞭にし、ICT機器(PCと大型テレビ、実物投影機等)を活用して生徒の興味や関心を高める。 	1年	○被服製作の授業では、班内で教え合いを行いながら作業を行うことができた。	<ul style="list-style-type: none"> 授業の振り返りシートなどを活用し、生徒が自らの学習を振り返り、見直しをもって取り組むことができるようにする。 	被服製作ではグループ活動を取り入れ教え合う場面を設けることで、手縫いの技能を深めることができた。
	2年	○健康によい食習慣において、自分の食生活と関連づけて考えることができる。		2年	○実生活の食事を振り返り、中学生に必要な栄養素を意識しながら献立内容を作成することができた。		自身の食生活振り返ることで、食生活の改善に向けた取組を主体的に考えることができた。今後も実生活と結び付けていく。
	3年	○幼児の心身の発達の特徴について班ごとで話し合い、積極的に発表することができる。		3年	○おもちゃ製作では自分で製作の計画を立てながら作業に取り組むことができた。▲質問に対して積極的に答える生徒に限られている。		幼児のおもちゃ製作では、デザイン考案から完成まで生徒自ら考え、実践することができた。遊び方も検討させ、製作を行う。
研修課題 (キャリア教育に関連した教科としての取組)	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法		1 学期の成果と課題	1 学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容	2 学期までの成果と課題	1 年間の成果と今後の課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体性を育む授業 ・地域や小中との連携を生かした取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活における課題を提示し、その課題解決に向けてどのような対策ができるかを考えさせ、実践を通して生徒の主体性を育む。 ・お魚教室だけでなく、地域の方から郷土料理の調理方法を教えていただく授業を検討していく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活における課題を生徒自ら考えさせ、正しい情報の収集・選択、整理できる力を養い、プレゼンテーション力を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 製作の振り返り時間を確保し、自身の課題を見つけ、その解決策について考える授業を展開した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活を振り返り、生活の見直しをすることができた。 ・漁協女性部と連携し、魚の調理を適切に行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実技指導では動画視聴をさせながら実践したり、ロイロノートを用いて資料を提示することで、学習内容の理解につなげることができた。 ・今後は单元ごとに小テストを実施し、衣食住における知識の定着を図っていく。 	